

資料提供



公益財団法人

滋賀県産業支援プラザ



(公財) 滋賀県産業支援プラザは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています

提供年月日：令和6年(2024年)1月9日
所属名：(公財)滋賀県産業支援プラザ
所属課名：経営支援部
担当者名：佐藤、植村
電話：077-511-1413
E-mail：hanro@shigaplaza.or.jp

地域をけん引する製造業を伴走型で育成！

公益財団法人滋賀県産業支援プラザ（滋賀県大津市打出浜2番1号 コラボしが21 2階）は、令和2年度から、地域の中核となる企業を育成し、その企業がリーダー役として、地域全体の中小・零細企業群を底上げする調査研究事業「地域中核企業育成支援事業」に乗り出した。令和3年度から、さらに競争力のある企業へと成長させる「滋賀型・NT（ニッチトップ）企業創出支援事業」に移行、他の県内支援機関と一体となり地域をけん引する企業育成に取り組んでいる。

滋賀県製造業の特徴

- ① 大手企業の下請け加工型製造業が集積・・・市場成長期には効果あるが、低迷期は影響を受けやすい。
- ② 技術・開発力・・・強みを活かした新しい製品やサービスを開発する体制・経験に乏しい。
- ③ プロダクトアウト・・・市場との接点または調査経験がなく、適切な市場選定・戦略構築に難航。
- ④ データ分析と改善・・・データの分析や改善の習慣化、社内文化の醸成が難しい。
- ⑤ こだわり・・・職人氣質が強く、従来のやり方に固執するあまり発想が限定的。
- ⑥ 計画実行力・・・自発的な取組みまでにはいたらず計画倒れになりがち。

地域中核企業支援事業

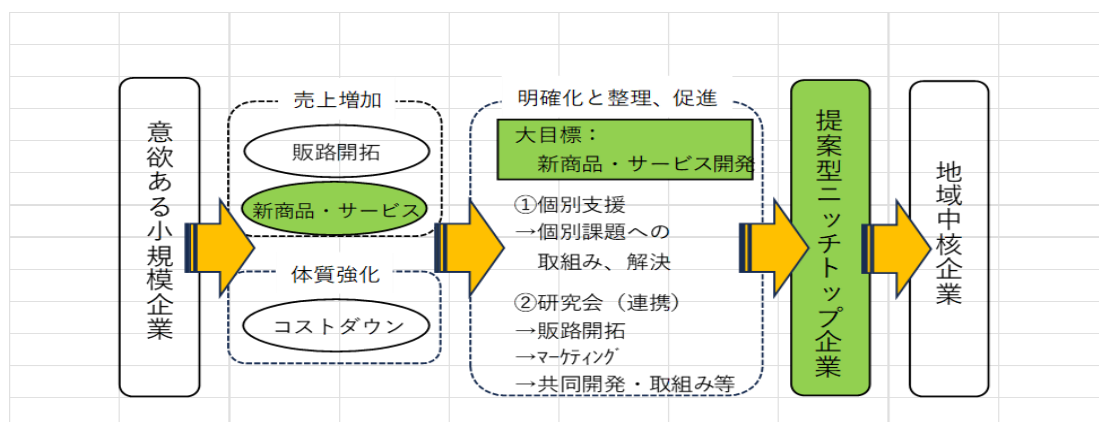
当プラザは商談会事業を実施してきた。これは県外の発注企業と県内企業を引き合わせて受注を獲得するというもの。ただ、発注する企業側のニーズが多様化しており、「商談会で取引あっせんするだけではニーズに対応できなくなっており、受注側企業の力を高めなければならない」という課題認識が生まれた。そこで地域中核企業育成支援事業に取り組んだ。この事業は、「地域の経済をけん引する中核となる強い企業」の成長支援を行うもの。

1社1社にきめ細かく対応する中で、経営者の心を開き、この会社ならこういうことができるのではないかという成長の方向性を見極めて、経営者に気づいてもらうことに心を砕いた。「売上を引き上げるか、コストダウンをするか、新製品を開発するか、5社あれば5社それぞれの支援があった」と振り返る。

NT(ニッチトップ)企業創出支援事業

2年目以降の展開では、個別支援に加えて、志を同じくする採択企業間の交流や他の支援機関の巻き込みが効果的ということに気がついた。滋賀県には産学官連携や企業集積などの特色がある。これら外部の力を借り、売れる商品（技術）の獲得と一定シェア確保を目標に、将来的に地域経済をけん引する企業を創出することを目指す「滋賀型・NT（ニッチトップ）企業創出支援事業」へと発展し、継続することにした。コーディネーターは5年後の目標達成へ向けたロードマップと各年度の目標設定や見直しを経営者で行う。あわせて、2年目以降は目標達成へ向け成長を継続できるようフォローする。これらの企業が順調に成長し、雇用や地域内取引の拡大によって地域経済をけん引する役割を果たすことで、県内製造業のボトムアップをはかり、将来のニッチトップ企業となる企業群の裾野を拡大させるといった好循環を描くことを波及効果として期待している。また、志を同じくする採択企業間の交流や他の支援機関を巻き

込む仕掛けとして、新たな販路拡大を目指す「企業連携研究会」を会員制で発足させた。研究会にはNT採択企業（卒業生含む）や別途プラザが支援する企業、商社などと、地域の他の支援機関が参加し、連携して新商品開発、新事業開発を目指す。支援事業が終わった後も、研究会で継続してプラザとのかかわりを持ってもらい、新たな開発分野に挑戦してもらいたいとの思いを込めている。



本支援事業の集大成として、セミナー及び事例展示を開催いたします。

- ・日時：令和6年1月18日（木） 13：00～セミナー、15：00～事例展示
- ・会場：大津プリンスホテル 叡山董（大津市におの浜4-7-7）
- ・展示予定：支援先パネル（11先）、未公開含む新商品